

小中一貫教育だより

加東市教育委員会 小中一貫教育推進室
E-mail shochu-ikkan@city.kato.lg.jp
令和3年7月9日発行

ふるさと学習「かとう学」副読本について～家庭でもご活用ください～

加東市では、小中一貫教育を通して、「ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもの育成」を目指しています。ふるさと学習「かとう学」は、ふるさとの「ひと・もの・こと」にふれる学習を通して、ふるさとへの愛着や自信と誇りを醸成することをねらいとしています。今年度、その手助けとなる副読本を作成し、加東市立学校の全児童生徒へ配布しています。

かとう学副読本の特徴

- ・加東市のことを、社会科だけでなく他教科でも学ぶことができる副読本にしました。
- ・先人や地域の人々の工夫や努力が見える副読本にしました。
- ・加東市の魅力を伝えられるよう、イラスト、写真、資料を多く入れて、親しみやすく視覚的に見やすい副読本にしました。

かとう学上巻（1～4年生対象）



かとう学下巻（5～9年生・中3対象）

各教科の学習内容を、ふるさと「加東」と関連づけて学習することで、教材を身近に感じることができるとともに、加東市の今と昔を深く知ることができます。また、知ったことに直接「ふれる」ことで、知識がさらに深まります。子どもたちが本物にふれ、出会うことで、この副読本で知った人々の思いや感動を、直接体験してくれることを願います。

「伝の助」が学びのコーディネーター役となり、子どもの興味関心を高める問いかけや解説をします。

加東市の「ひと・もの・こと」の魅力を伝えることで、子どもたちの主体的な学びを引き出します。

Ⅱ くらし

1 火事からくらしを守る

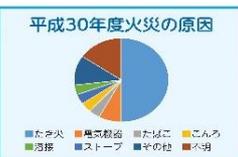
①おそろしい火事

火事がおこると火が燃え上がり、黒いけむりがたくさん出ます。炎やけむりは、人の命をうばってしまうことがあります。時間がたてば、火はますます強くなり、周りのものを巻き込んで、被害を拡大させていきます。火事からくらしを守るために、どのような人々がどのような活動を行っているのでしょうか。

火事から人々のいのちやくらしをまもるためにがんばっている人がいます。



②加東市の火事の数とその原因



③火事が起きたら

119番通報をすると、どこにつながりどのように連絡が行くのでしょうか。



② 店ではたらく人にインタビュー



品物をならべる人
買いやすいように、商品をきれいに
ならべています。
子どものおがしは、危い商品になら
べて取りやすくしています。



ポップ(商品紹介カード)をついている人
おすすめの商品を、わかりやすく、
しょうがいしています。
楽しいポップになるよう工夫してい
ます。



調理をする人
えい生置とくに気を付けています。
産地を表示して安心して食べていた
だけるよう、心がけています。



レジをする人
気持ちよく買い物していただけるよう、
えがおでまわっています。

2 生きものたんけんに出かけよう

生きもののおしぎを見つけよう

(1) 学校の周りの植物や樹木

学校の周りには、一年を通して、たくさんの植物や樹木があります。似ている草花を見つけたり、季節によって移り変わる植物や樹木の様子を観察したりすると、わかることがたくさんあります。

みる、きく、におう、さわる、あじわうなど、からだぜんたいで、かんじよう!

～春から夏～

○タンポポのなかま



【タンポポの笛】



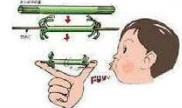
①茎を切り取り、次く側を軽く指でつぶす。
②吹き口を舌で探り、強く吹く。

*はさみ具合や吹き方の強弱で音が変化します。

タンポポは、小さな花のあつまりです。わた手に付いた種を飛ばして、なかまをふやします。



【タンポポの風車・水車】

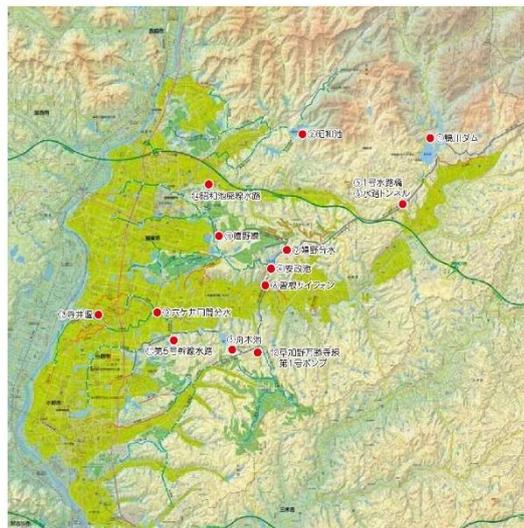


①茎にはさみなどで、切れ目を入れる。
②茎が自然に外側に広がるので、茎の中心に短い竹ごや皮を挿す。
③吹くと風車に、下半分を、川につけると水車になる。

(つくって遊ぶほうより市販のキットを参照)

③用水をつくる

東奥川疏水



東奥川流域は、全国でも特に雨の少ない地域です。かつてこの地域にくらす人々は、水を得るために大変な工夫や努力を重ね、水を大切にしてきました。東奥川疎水は、平成18年に「全国疎水百選」にも選定され、地域にとってかけがえのないものとなっています。

上の地区に訪れた①から④までの施設は、次のページからくわしく説明するよ。お家の人といっしょに見に行ってみよう。つくった人の工夫や苦労を感じることができるよ。

子どもが見てみたい、やってみたいと思う教材を紹介しました。豊かな体験を通して、子どもの主体的な学びと感性を育てます。

(2) こいのぼり

ひな人形と同じく、加東市を代表する伝統産業の一つ「こいのぼり」。桃と鶴牛(たんご)、四方の折角にまつわる産業が加東市にはあります。



【加東市で作られているこいのぼり】

こいのぼりのはじまり

こいのぼりは江戸時代、武家が始まったといわれる日本独自の風習です。もともと鶴牛(たんご)の節句は、葛藤(しょうぶ)の節句ともいわれ、軒先に悪気をはらう葛藤(しょうぶ)をつるして、無病息災を願っていました。その葛藤(しょうぶ)と武道・武勇を大事にする尚武(しょうぶ)という言葉が結びつきました。武家では、男の子が生まれたお祝いと強くたくましく育ってほしいという願いをこめ、のぼりをあげるようになったそうです。それが庶民にも伝わり、こいが竜となって天に昇ったという民間信仰の伝説にもあやかって、こいのぼりを空高くあげるようになりました。また、一番上にあげられる吹き流しについても、古代中国の「五行説」がもとになっています。青色は「木」、赤色は「火」、黄色は「土」、白色は「金」、黒色は「水」を表してあり、無事な成長を願った「まよけ」となっています。

こいのぼりもひな人形作りと同じように、農閑期の季節作業として始められました。明治30年ごろ、新定地区の藤原一雄(ふじわらかずお)氏と大畑地区の柴崎善之助(しばさきぜんすけ)氏が、大阪の柳で学んだ染め方法を東奥地域に持ち帰ったのがその始まりといわれています。

こいのぼりもひな人形も明治時代から作られているんだね。



加東市の伝統産業を紹介しました。実際に目で見て、働く人の工夫や苦労を感じてほしいと願います。

親子で加東市の魅力にふれ、共に考えることで、子どもの主体的な学びが、家庭学習にも広がることを目指します。

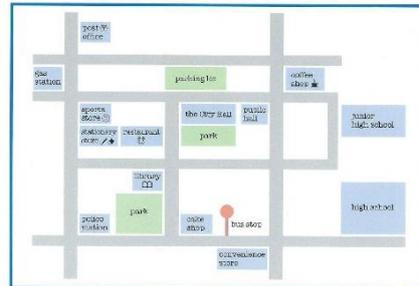
We love our city Kato!

I'm Kato Dennesuke.
I'm the mascot of Kato.
Kato is a beautiful city.
I love Kato City very much!



mascot of Kato / 加東市マスコット
Beautiful city / まちがきれい
very much / とても

Where's the City Hall?



We have three libraries in Kato City.
We can borrow many books.

We don't have a movie theater.
I want a movie theater in our town.
We can enjoy watching movies.



下巻の巻末には、加東市の魅力を英語で紹介しました。